

世界農業遺産国際スタディ・プログラム 研修レポート

総論

私は世界農業遺産国際スタディ・プログラムの活動で多くの経験を積ませてもらった。特に二日目は学びが深かった。自分が知らなかった能登の内側ようなものを知った。能登の人の仕事に対する情熱や使命感。伝統を大切にする姿勢。その強すぎる思いが、ある意味で能登に外部が介入することを拒むという障壁になっていることも感じた。しかし、それが彼らの生きがいであり、生きる理由でもあった。そのことに気が付かずに、私は一方的に能登が外部の私たちを受け入れようという姿勢がない、新たな担い手を生み出すには、伝統という堅苦しい物は妥協し、効率化する必要があると主張してしまった。それは私にとっても能登の伝統が形として残ってほしい、受け継いでくれる人が居てほしいという思いからだ。しかし結果的に、能登の職人さんの立場や思いを非難し、悲観的になり、みんなと意見を共有し、場の雰囲気を悪くしてしまった。

プログラムでの活動を通して白米千枚田愛耕会の堂下さんとの繋がりができたので、夏休みに千枚田のボランティアに行く機会を自分で作った。その中で、地元の方々が伝統を守ることにどれほど誇りを持っているのを感じた。それが彼らにとって原動力となっていて、だからこそ受け継ぐことが出来ている。そこを効率化してしまうと、今の方々もモチベーションや使命感を失い、受け継ぐ意味を見いだせなくなるだろう。自分がいざ当事者になってみると、効率化だけでは持たないことが身にしみて分かった。身を削るような、それほど大変な作業なのだ。だからこそ、外部はそれなら効率化すればいいと思ってしまう。しかし効率化してしまえば、楽になったとしても、そこに自分が作業をする意味ややりがいを見いだせなくなり、余計に辛くなるのだ。先人からの伝統を自分が今受け継いで現代につなげているということ、そのことを作業しながら実感出来ることに、何か言葉に出来ないような大きな物を私自身も感じた。

この学びを通じて、外部の自分が正しいと思っていることが、本当は間違っているかもしれないということを知った。社会的に、一般的に正解とされていることが、当事者になってみると異なっていることを知った。だからこそ私は、もっと能登の内部との繋がりを持てるような人間になりたいと思った。ただ自分の意見を押しつけるのではなく、当事者の気持ちになって、当事者と同じことを経験して、共感して、その中で自分なりの考えを持てるような人間になりたいと思った。

私はプログラムの活動後、夏休みに多くの経験を積ませてもらった。なかでも、私は今ボランティアというものに違和感を感じている。能登半島地震直後、能登を復旧するために多くの人手が必要だった。私も夏休み前までは災害派遣で輪島へ行き、漆器洗浄や瓦礫撤去などの活動を行った。しかし、夏休み後の現在では、あまり災害復興の要請の願いが来なくなった。現在は傾聴活動として、仮設住宅の方とお話をして精神的なサポートをすることが主な活動になっている。復旧作業という面でのボランティアは大きな役割を果たす。しかし今の能登を見ていると、私の中で能登の復旧で求められているものが変わりつつあるように感じる。もっと能登の人々の内面や内部での繋がりのようなものの構築が必要なのではないかと感じる。ボランティアという言葉は、自分が外部の存在だと感じる。私たちはあくまで能登の企業や地域の方々をお願いされて能登へ行く。そこは自分が頼まれたから行く場所であり、なかなか内部との関わりを持ってない。今回のプログラムでの活動は、まさに内部との関わりが大きな活動だった。自分は何度も能登に行ったことがあるが、知らないことが沢山あった。今までのボランティア活動では絶対に聞けなかったことを聞くことが出来た。表面的ではなく、もっと深く能登に関われる環境がほしいと思った。だから、現在私はもっと内部との関わりが持てる活動機関を能登に作りたいと先輩方と考えている。自分達は外部ではなく、ただのボランティアという存在でもないという意識をもって活動したい。たとえ震災がなかったとしても、能登は里山里海としての魅力があふれている町はずだ。もっとみんなが知って、大切にしていけるべき町はずだ。だから、能登で内部の繋がりを持てるような、そんな環境を作りたい。能登をもっと身近な存在として感じられる場所を作りたい。実現するにはきっととてつもない歳月がかかると思うし、本当に実現できるかは分からないが、まずは地域の人との関係づくりから初めて行こうと思う。そのためには、まずは自分自身が地域の人に受け入れられる存在にならないといけない。沢山能登へ行って、地道に地域の人との繋がりを構築していきたい。そして将来的には、大学生などの外部の人も通えて、地域の人と生活を共にし、本当の意味で内部との関わりが持てるような、そんな場所を作っていきたい。